

ドクターNAKAMURAの 健康道場



Vol.57 吉か凶か。和尚 の喝の行方は？

瞬く間に轟音が鳴り響き、先ほどまでの夕焼けが嘘のように辺りは豹変し戦々恐々としている。

稲妻と雷鳴が交互に打ち寄せ、瞬く間にあたりは大粒の雨のベールに包まれた。

さっきまで、呑気に大根を収穫していた姫が悲鳴をあげる。

「あかんわ、山部さん。こりゃ普通の通り雨じゃないで。ちょっと雨宿りしようや。」

「スコールみたいなもんだね。こりゃ。温帯気候の日本とは思えないね。これも、地球温暖化の所為なのかな〜。」

「何、のんびりしたことを言ってるの。早くしないとずぶ濡れになっちゃうよ。」

姫に急かされ、山部も本堂の軒下へ移動し、一息ついた頃、顔面蒼白で夢遊病者のような顔の古川が本堂から出てきた。

「あの人、大丈夫？、何か、ラリッてない？」

「まあ、思うところがあるんじゃないの。そっとしておいてあげた方がいいんだよ。こういう時は。」

二人の傍を古川が通り抜けようとした時、

「君君。大丈夫。あまり思いつめない方がいいよ。何があったか知らないけど、いきなり和尚と無想空間で座禅を組むからそんなことになるのよ。言わば、幼稚園児が大学生に喧嘩を売るようなもんだからさ。あれでいて、和尚は結構、いい加減だからさ。まさか、このまま首を吊ったりしないよね。んっ、これ食べる。栄養満点で、気分転換になるよ。」

姫が古川の胸に大根を4、5本押し付ける。

「あ、あ〜。」

古川は成されるがままに押し付けられた大根を胸にだき、返答に窮している。

「君、何が問題なのか、分からないけど、あまり、思いつめないことだね。」

山部がそつと言葉を添えたが、古川の心には届かなかつたようで、重い足取りで去っていく。

そよかぜ 循環器内科・糖尿病内科
(県立中央病院 前)

院長 中村陽一